

# HopStepJump ③

<https://toyono-jinjikyo.com/>

## 授業づくり①

### — 学習指導要領と授業について —

第2回初任者研修は、「子どもの力を引き出す授業づくり」をテーマに、能勢町立能勢ささゆり学園の辻校長先生に動画でご講義いただきました。講義では、子どもたちをしっかりと見取り、関係をつくり、力を引き出していくこと、そのための声かけの方法や、子どもの姿や実態をとらえ子どもたちに意欲をもたせることなど、授業づくりの心構えに重点を置きお話いただきました。研修の後半には、指導案の書き方についてもご教授いただき、夏期休業中に実施を予定している10年経験者研修との合同実施研修（通称・コラボ研修）に向けての説明と合わせて、学習指導案を作成する際のポイントを確認する機会となりました。

本研修は、「オンデマンド型」と呼ばれる（動画を視聴して、振り返りシートを作成する）実施方法でした。集合開催のような交流・意見交換がない分、この研修通信を読むことで研修内容を振り返ることや受講者のみなさんの気づきや学びを共有できればと願って作成しています。（以下は、第2回初任者研修の「振り返りシート」から抜粋した感想等です。）



私自身のクラスも発表する子どもが限定されています。もちろん、発問のレベルによって変わりますが、自分の考えなどを問うことになると、いつも同じ子どもたちばかりが発表をします。しかし、既習の内容や自分の考えに自信がもてる内容であれば、挙手する人数も多くなります。発問のしかたとして、「どうしてそう思う？」ではなく、より事実を発言できる「どこからそう思う？」という聞き方を実践してみたいと感じました。

今、自分は教える授業をしてしまっています。児童は面白いアイデアをたくさん出してくれますが、そのすべてをうまく学習につなげられていません。これからの授業の中で、無理やり教師がまとめるのではなく、子どもたちが学習の最後に今日の授業で伝えたかったことは何なのかを見つけられるような授業をつくれるように、発問のしかたや授業の流れを試行錯誤していきたくと思いました。

「子どもの力を引き出す授業づくり」をするためには、まず、子どもたちが安心して学べる環境にしなければならぬと感じました。そのためには、学校は誰もが失敗していい場所であることや、誰もが間違える場所であることを子どもたちに伝え、自信がない・分からない・恥ずかしいというような子どもたちが積極的に質問をしたり、身近な教師に言えたりするような環境づくりに努めたいです。

授業づくりのポイントで出てきた基本的な視点3つ（1、子どもを大切にする 2、子どもの力を引き出す 3、子どもの力を信じる）を大切にしていきたいです。その中でも、「子どもを大切にする」を意識していきたいと思いました。子どもたちは知っているだろう、説明をしなくてもいいだろうと思わずに、子どもの声を聞きながら、発言（つぶやき）などを大切に授業を進めていきたいと思いました。

「生徒たちから見れば先生は自分ひとりであり、1対1の関係であることを忘れるな。」というお話が印象に残っています。教師からすれば生徒は多数いますが、生徒から見れば担任や教科担当の先生は基本的にそれぞれ1人しかいません。特に自分が担任しているクラスの生徒たち一人ひとりには、このような意識を強く持たなければいけないと感じています。先日、担任クラス34名の保護者との個人懇談を行いました。一人ひとりの性格が異なるように、それぞれが違った家庭環境の下で育っていることを実感しました。そのような背景への理解をもとに、それぞれの子どもに丁寧に関わり、向き合っていく必要があると改めて思いました。

第1回の沖本先生の講義（もちあじ、安心できる関係性）や、第3回の閑喜先生の講義（ユニバーサルデザインの視点からの授業づくり・学級経営）ともつながる講義内容で、改めて教材理解と子ども理解を行き来しながら授業づくりをしていくことを確認しました。



講義の中にあつた「職場の先輩から記憶に残る授業についての聞き取り」という項目では、他の教科の先生方など同僚の先生方とのコミュニケーションを取れる機会になったと同時に、情報共有やアドバイスを頂けるきっかけになったのでとても有意義な時間でした。教科が違っていても、生徒指導の点や、発問の工夫など指導していただける点は多くあるので、この機会をきっかけに先輩方から学ぶことや情報共有を今以上に活発に行っていきたいと感じました。

オンデマンドでの研修は、何度でも見返せる、考えるときは自分のペースで一度止められるなどのメリットを多く感じました。しかし、対面での研修で感じられる多くの教員の皆様と勉強している雰囲気味わえないことや、他の教員の皆様の意見が聞けない孤独感もありました。どちらの研修にもよさがあるので、研修体系に合わせた自分なりの受講方法を見出せるようにしていきたいと思います。

研修をきっかけに、考えたり振り返ったりすること、学び取ろうとする姿勢や日々の授業づくりに活かそうとするようすが提出された振り返りシートから伝わってきました。

オンデマンド開催と集合開催の、そのどちらがよいかを明らかにしたいわけではありません。コロナ禍における研修の実施方法の一つとして、当初は苦肉の策だったものの、今では選択肢の一つとしてオンラインを「活用」しています。研修の実施方法については、「研修内容」と「実施時期」をはかり、検討・決定していますので、みなさんにはそれぞれの実施方法のメリット（よいところ）を感じながら受講していただけたら幸いです。

また、夏季休業中に実施される10年経験者研修との合同実施研修（コラボ研修）の説明や連絡もありました。お互いにとって貴重な機会、学びが深まる時間となるように準備を進めましょう。

コラボ研修（模擬授業）のようすを知ることができました。少し緊張しますが、10年目の先生方からアドバイスなどを頂くことができると聞き、とても楽しみになりました。コラボ研修で模擬授業をする際は、現時点よりよい授業ができるよう日々精進していきたいと思います。

指導案の書き方で「児童観」を書くときに、学習内容に関する児童の様子に絞って記述していくことが大切だと感じました。以前自分で指導案を書いたときのことを振り返ると「明るくて元気で…」などと、指導内容と直接関係のない児童のようすを記述していたことが多かったです。今後指導案を書いていくときに学習内容に関連した児童のようすを記述することを意識していきたいです。

4月から今まで勤務してきて、わからないことがあれば誰かに相談するように意識してきました。その結果、わからないことは少しずつ減ってきましたが、辻先生の言葉を聞いて、自分の相談のしかたを振り返ると、自分で考え、試行錯誤する気持ちが抜けていると気づきました。相談にもよい相談のしかたがあると理解しました。自分なりの解決方法を考えてから相談することは、自分の意見についても同時に先輩から意見をもらうことができ、一石二鳥だと思いました。

もっと！

## コラボ研修 ～コラボ研修を「より深い学び」にするためのポイント～

### ☆児童・生徒役で参加できる！！

自分が模擬授業をする以外の大半の時間は「授業を受ける側」の視点で授業づくりを考えられます。同じ初任者の授業者としての姿、それを助言される10年研受講者の姿からも学べますよ。

### ☆その授業、その単元を2学期以降で実践できる！！

10年研受講者からの助言を受け、改善して実際に2学期以降で自分のクラス、担当クラスで実践できます。言わば、「合同教材研究」で教材への理解を深め、じっくり授業準備ができますよ。

### ☆日常的な悩みや相談、質問もできる！

模擬授業の合間に、先輩の経験や思い、考えを聞くことができます。小学校は現在の所属学年・担当学年をベースに、中学校班は教科でグループをつくっています。この機会に自分から質問してみましょ。